



父が本校の卒業生で、牛を学びたいという思いが強かったので入部しました。リードマンの練習をしていて、うまくできたときに嬉しいです。共進会で上位入賞すること、皆で楽しく部活を続けていくことが目標です。(2年生、鈴木 仁基さん)



実家は肉牛農家で、将来は家の仕事を継ぎたいと思い本校を選びました。そして牛のことをもっと知りたくて入部しました。力作業が多いので当初は大変でしたが、最近は慣れてきました。部員皆が優しく、良い雰囲気です。ここで勉強したことを活かして、実家に戻ったときになんでも任せてもらえるようになります。(1年生、岩崎 蒼空さん)



小さい頃から牛が好きで、牛のことを学びたくて牛部への入部を決めました。牛が身近に感じられるようになり牛からの愛情表現も味わえて嬉しいです。牛をリードする難しさを痛感していますが、リードマンコンテストで上位入賞することを目標に頑張っています。(1年生、田中 優羽さん)

地元の交流を大切に
畜産科の現場実習は近隣の酪農家に4泊5日の泊まり込みで行なわれる。また文化祭では、地元のアイスクリューショップに生乳を提供し、そのアイスクリューを販売するなど地域交流も活発だ。



概要

熊本県立菊池農業高等学校 牛部
1年生7名、2年生3名、計10名
フリーストール牛舎(搾乳牛15頭、経産牛20頭、育成牛14頭、和牛素牛5頭、和牛肥育10頭)
活動内容：畜産科のなかでもさらに牛への理解を深めたいという生徒が集まる牛部。牛の管理全般を行なう。共進会に向けて牛洗いや毛刈り、リードマン練習なども行なう。
担当教諭：山下 智先生

(取材=小川)

※学年は2024年1月取材時点です。



部活見学が一番楽しそうだったので入部を決めました。共進会では酪農家さんの牛を引くこともあるので緊張しますが、日頃の練習の成果で落ち着いて牛を扱えるようになりました。大会でのリードはもちろんですが、牛の体調の変化などにも目を向けられるようにしたいです。(1年生、柿本 さくらさん)



酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！

NO.16

熊本県立菊池農業高等学校



将来の経営を見据えて
牛の管理だけでなく、生徒達が将来経営者という立場にたったときのことを考え、乳価や収支など経営に関する学びも大切にしている。



乳牛共進会に出場してみたいと思い、農業高校で畜産科があった本校に入学を決めました。共進会で寝ずに皆で牛の世話をしたことはとても良い経験になりました。将来は実家の酪農を継ぐ予定なので、もっと牛のことを学んで、いろいろなことに詳しくなりたいです。(1年生、金子 崇汰さん)



新型コロナによる規制が緩和されたことで、さまざまなイベントに参加できるようになりました。牛部はそこでの活動や地域の方々との交流を非常に大切にしています。こうしたつながりが将来生徒達の自信になると考えています。また畜産への理解も大切にしています。生産動物ということを理解して、人間との関係性をしっかり作れるような大人になってもらいたいです。(山下 智先生)



小さい頃祖父に連れて行ってもらった共進会で、本校の先輩達がかっこよく牛を引く姿に憧れていたので入部を決めました。目標は共進会で上位に入賞することです。それを達成するために日々、牛の管理に励んでいます。将来はここ菊池市で酪農家になりたいので、新規就農を目指して頑張ります。(2年生、毛利 琉心さん)

学生牛部は今!